

香川県の地震

令和8年（2026年）2月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

（令和8年（2026年）3月6日）	・・・	2
-------------------	-----	---

地震一口メモ

推計震度分布図について	・・・	3
-------------	-----	---

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

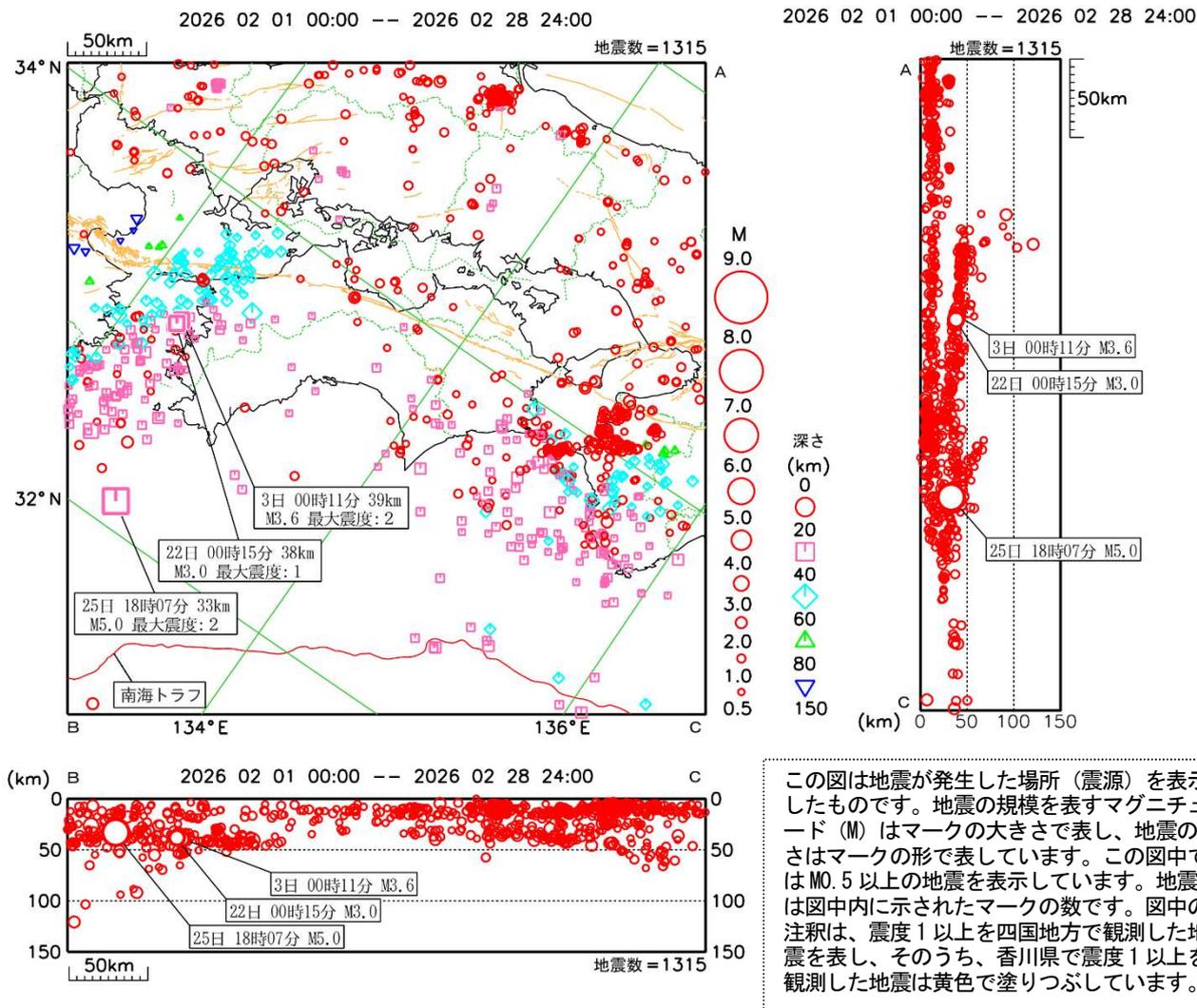
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2026年2月

◎震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした（前月は7回）。

四国で震度1以上を観測した地震（上記の地震を除く）は、次の3回でした。

- 3日 00時11分 豊後水道の地震（深さ39km、M3.6）により、愛媛県愛南町、高知県宿毛市で震度2を観測したほか、愛媛県、高知県で震度1を観測しました。
- 22日 00時15分 豊後水道の地震（深さ38km、M3.0）により、愛媛県宇和島市・西予市、高知県宿毛市で震度1を観測しました。
- 25日 18時07分 四国沖の地震（深さ33km、M5.0）により、愛媛県宇和島市・伊方町・愛南町、高知県宿毛市・土佐清水市・黒潮町で震度1を観測しました。この地震では、熊本県産山村・高森町・美里町、大分県佐伯市・竹田市、宮崎県延岡市・門川町・高千穂町・美郷町で震度2を観測したほか、中国・九州地方で震度1を観測しました。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

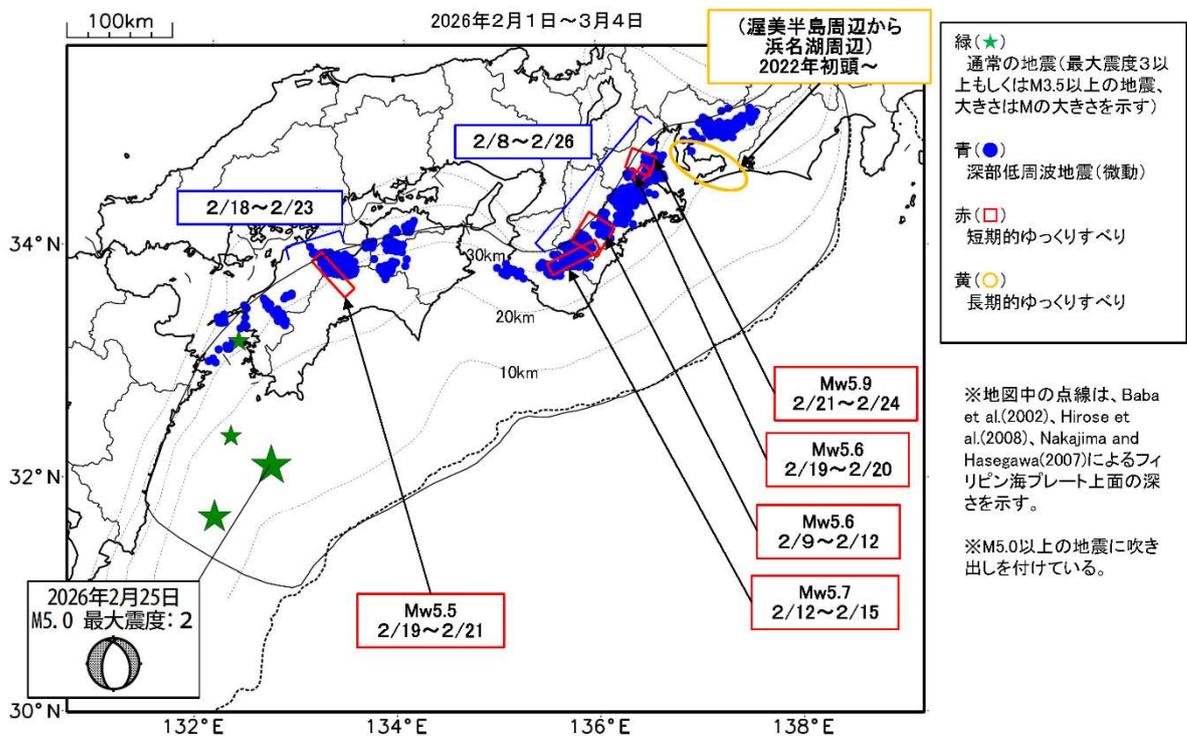
令和8年(2026年)3月6日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果 (概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率は高い(詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」参照)と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....【紀伊半島北部から紀伊半島中部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。【四国中部】気象庁の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

南海トラフ地震関連解説情報について —最近の南海トラフ周辺の地殻活動—

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/06d/nt20260306.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteg/>

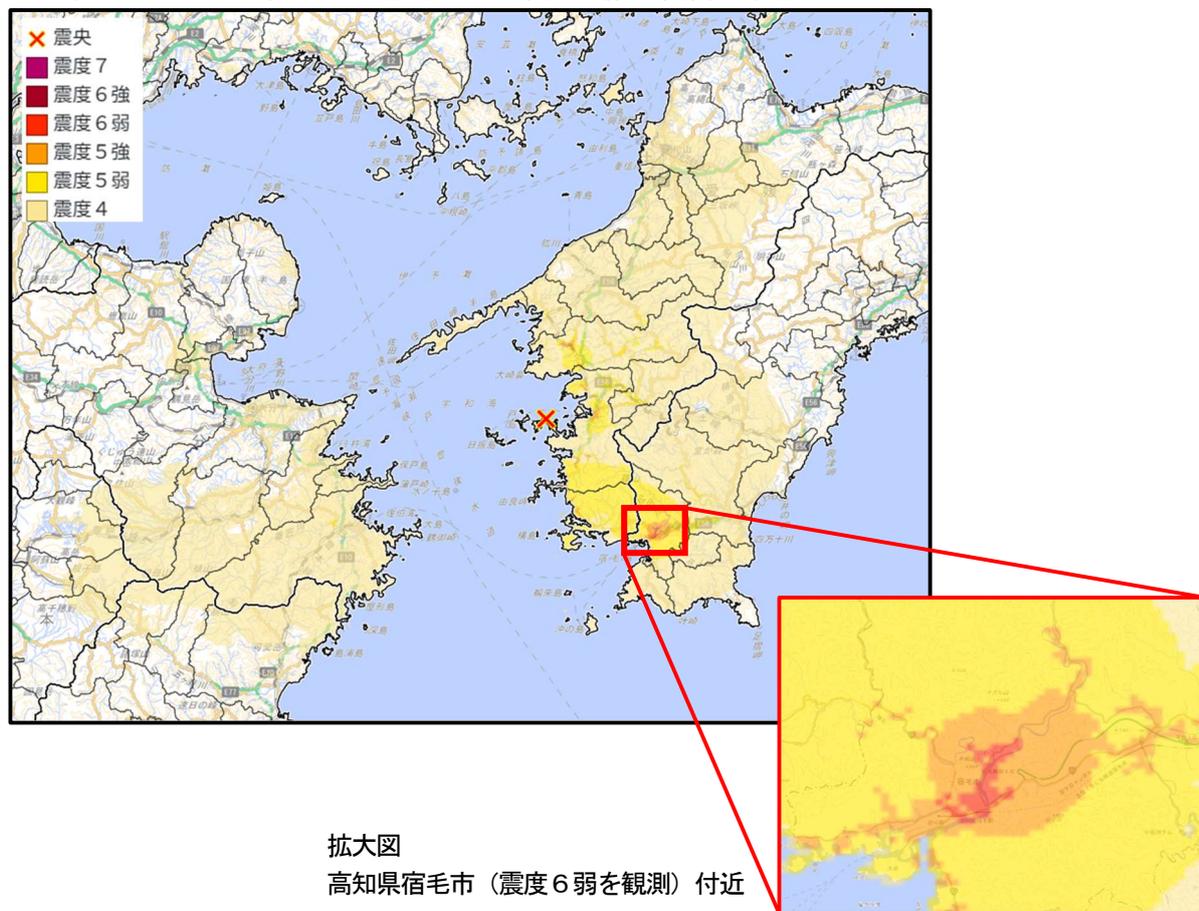
【地震一口メモ】

推計震度分布図について

地表で観測される震度は、軟弱な地盤では揺れが大きく、固い地盤では揺れが小さいなど、地面表層の地盤増幅度の影響を大きく受けます。推計震度分布図は、実際に観測された震度等を基に、地面表層の地盤増幅度を使用し、震度計のない場所の震度も推計（※1）して、面的な分布図で震度を表現したものです。推計震度分布図は、原則として最大震度5弱以上を観測した場合に発表し、推計震度4以上の範囲を、地震発生から15分後を目途に、関係防災機関に提供するとともに、気象庁ホームページに掲載します。ただし、震度5弱以上を観測していても、強い揺れの範囲に十分な拡がりが見られない場合などは推計震度分布図を掲載しないことがあります。

※1 令和5年2月1日以降は250m四方の格子（メッシュ）で震度を推計しています。

2024年4月17日23時14分 豊後水道の地震での推計震度分布図



推計震度分布図では、震度の大きな地域が、どのような拡がりを持って分布しているかを確認することができます。震度が大きく推計された地域は、河川の流域、沖積平野、湿原地帯などの揺れやすい地盤を反映していることがあります。大きな震度の面的な拡がりを考慮して、被害状況把握などの参考資料としてご利用ください。

利用上の留意事項

推計震度分布図で示す個々のメッシュの震度は、各メッシュの矩形内が同一震度であることを示すものではなく、また、メッシュの境界線が震度の境界でもありません。したがって、分布図を必要以上に拡大してメッシュの境界線を強調しても、あまり意味がありません。図を活用する場合、大きな震度の面的な拡がり具合や、その形状に着目していただくことが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なることがあります。

推計震度分布図（防災情報）：

https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map